

NewsLetter



自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.135, Aug, 2018

地域医療オープン・ラボ NEWS LETTER CRST メンバーリレーエッセイ No. 6

リレーエッセイ：始めの一步～ジャック・スパロウ

自治医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座 西野宏

始めの一步

今まで書かれたエッセイを拝見すると「なるほど！」とうなずける内容が多く勉強になります。これらを実践すれば、凡人なる自分も著名な先生がたの仲間入りができそうと妄想が膨らみます。「皆様はさすが！！」と思う次第です。

さて自分ではありますが睡魔と煩悩が多く、「明日からしよう！」と思っただけは課題を先延ばしている自分の姿がありました。ひいては締め切りが迫り必死に対応し帳尻を合わせてきました。「次からはもっと早く始めよう」と後悔を常にしてきました。「のど元過ぎれば、なんとやら」とはよく言ったもので、まさにその通りであり同じようなことを繰り返して来ている自分がありました。さすがに最近では体力が低下し無理はできなくなってきました。

そこで最近始めたこと、まずはとにかく素早く仕事をスタートさせることにしています。形式と達成度はともかく、まずは始めることとしています。それは今後のタイムスケジュールを描きやすくし、資料の準備も余裕をもってできるようになりました。次にしていることは毎日ちょっとでも良いので作業をすることにしています。仕事の継続性が保たれ、7日も経てばかなり進んでいるようになりました。

過去のエッセイと比較すると内容が低俗すぎるとお叱りを受けそうで恐縮しています。わかってはいますが実践できない自分のような一般人の先生がた（失礼をお赦しください）の少しでも参考になればと思います。まずはスタートをきることに毎日ちょっとずつ手をかけること（スライドを1枚作成でもよい）が大切と考え実践しています。

とはいうものの、この原稿は出発時間待ちの上海空港のラウンジで書いています。性格はなかなかおらないのかもしれませんが。（すいません。）



ジャック・スパロウ

これをお読みの多くの先生がたが、「研究を行おう！」「研究をまとめよう！」とお考えのことと思います。学会発表や論文を読んで興味を持ったことを自分の仕事に当てはめ、多くの場合が研究を進めたと思います。参考文献を参照しながら、対象・方法・結果を記載し、考察をしてきたと思われまふ。自分としては体裁の良い論文を作成できたと考え、native の文章チェックを受けて投稿したところ、興味ないあっさりとした返事とともにあっという間に reject されてしまった。このような経験はないでしょうか。少し考えて頂きたいのは、研究とは pioneer の精神が大切なのです。先ほどの論文は単なる追試ではないでしょうか。追試も大切ですが、既

報告によりほぼ決定されかつ予測できる結果を報告しても、査読者及び読者には読むと飽きてしまう論文と判断されてしまいます。pioneer 精神をもち少し冒険をしながら道を切り開いてゆき示唆に富む結果を報告すれば、査読者及び読者は喜んで読んでくれることでしょう。

2018年5月6日付の日経電子版では科学技術の競争力低下について記載されていました。それによると日本の科学技術論文がピークを迎えたのは2000年代前半であり、独創性が高いと評価された質の高い論文数は米英独に次ぐ世界4位でした。2015年には中仏に抜かれ世界9位となっています。総務省によると2016年度の科学技術研究費は18兆4326億円であり、対前年比2.7%の減少であるものの、米中に次ぐ世界3位の水準だったそうです。莫大な資金を持って単なる追試を行うにはあまりにも勿体ないと感じられます。pioneer 精神を持って未知なる世界に足を踏み出し、新しい事実を探索に行こうではありませんか！パイレーツ・オブ・カリビアンズのジャック・スパロウのように、課題を求めて未知なる大海原に船出をしてみるのはいかがでしょうか。一度だけの人生と研究生活なのだから大切にしたいと思います。

(2016年から不定期にCRST*メンバーによるリレーエッセイをNewsLetterとしてお届けしています。次回の執筆者は、自治医科大学 整形外科学講座・石橋病院 安食孝士先生の予定です。)

*CRSTは、本学卒業医師の地域医療に根ざした研究や論文を支援するために、2010年7月に発足した「地域医療研究支援チーム」です。現在、173名の有志教員にご参加いただき、各専門分野における研究テーマのブラッシュアップに加え、一般的な論文作成支援にご協力いただいております。2013年4月に発足した「臨床研究支援センター」活動の一翼を担う組織として位置付けられています。

CRSTに参加し、研究支援活動を行っていただける方をひろく募集いたします。チームの活動は、主にメーリングリスト上での情報共有とディスカッションであり、会合等による時間制約はありません。チームメンバーの専門領域についてのご意見とご指導をお願いすることになります。参加登録や本企画へのご意見は、地域医療オープン・ラボ (内線2338、openlabo@jichi.ac.jp) へご連絡下さい。

CRST ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dscm/CRST.html>

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

1. 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
2. 自薦・他薦を問いません
3. 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>